阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室ニュース

vol.59
2016年3月
●発行●

特集　「所蔵資料図録ー暮らしのなかの震災資料ー」の刊行

発刊にあたって

人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の被災状況を物語るものや、被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたものを一次資料として収集し、保存しています。1995年(平成7年)10月から収集が始まり、2002年(平成14年)4月のセンター開館時には約16万点、2015年(平成27年)3月末時点では約18万7千点の一次資料が集まりました。

一次資料はモノ資料、紙資料、写真資料、映像・音声資料の4つに分類されます。

このうちモノ資料は、文字情報をほとんど持たない分、資料の受け入れ時の聞き取り調査が重要です。その資料がどういった状況で生まれ、どう使われたのか、資料を見ただけではわかりません。そういった語りとともにあることで、モノ資料は初めて震災資料となると言えるでしょう。

今回、資料室では、所蔵する震災資料のうちモノ資料を取り上げ、改めて写真撮影と目録整理を行うなど、これまでの資料収集の足跡を整理しました。そして、その成果を『所蔵資料図録ー暮らしのなかの震災資料』として発刊しました。

図録の構成

発刊にあたって
まえがき

阪神・淡路大震災の概要

人と防災未来センター資料室からの報告

総説　―震災資料と向き合う―　村上しほり
残すため、つなぐ作業　岸本くるみ
震災資料の目録整理　深井　美貴
環境調査・資料保存のとりくみ　杉本　弘幸

第1部　[特集]モノ資料へのまなざし

第2部　モノ資料写真一覧

01　震災被害を示すモノ資料
02　被災地内で生まれたモノ資料
03　被災地外から届いたモノ資料

第3部　目録

3階常設展示／モノ箱／モノ大箱／箱外

『所蔵資料図録―暮らしのなかの震災資料―』に寄せて

資料編

人と防災未来センター資料室の歩み
震災資料の収集、整理・分類、保存、公開、利活用

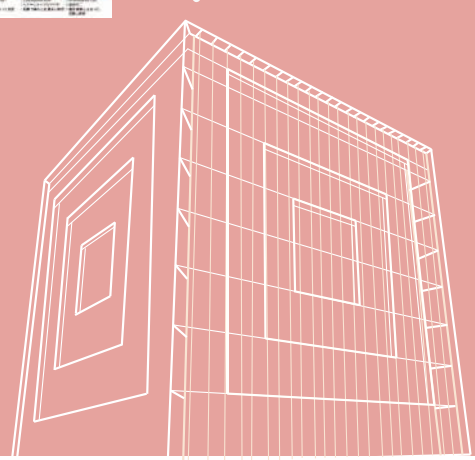
図録を開き、はじめにお目通しいただきたいのは、「人と防災未来センター資料室からの報告」です。
ここでは、現職の震災資料専門員が日常業務において、そして図録の作成にあたり伝えたいことを記しています。

巻末の「資料編」と合わせて読むと、所蔵資料の現状やひとぼう資料室のこれまでと現在がさらによくわかります。

◀第1部[特集]のページ例

次ページへつづく

日頃よりひとぼう資料室とつながりの深い方々からご寄稿いただきました。



一次資料の利活用促進と「資料集」

センターでは、阪神・淡路大震災や災害一般、防災・減災に関する刊行物を二次資料として収集しています。行政機関の報告書や震災の様子を描いた文芸作品などの図書、学会誌や防災を取り上げた一般誌などの雑誌、防災教育用のDVDや復興過程の記録映像などの映像、災害復興公営住宅の案内や周年事業のお知らせなどのちらし類などが含まれています。二次資料はセンター独自の配架分類に従って、5階資料室の書架に配架されており、来室されると自由に手に取りご覧いただけます。

一方、3階や7階の収蔵スペースに保存された一次資料を見るには、閲覧申請が必要です。閲覧は原則5階で行うため、収蔵スペースから職員が資料を持ってくることになり、そこにも少し時間がかかります。定められた手続きは決して難しくはありませんし、前もって申請していただくと、職員が閲覧までに資料を用意しておくこともできますが、二次資料と比べると利用されにくい傾向にあると言えるでしょう。

そうした現状を改善するために、資料室では、『震災資料集 vol.1 阪神・淡路大震災における住まいの再建―論説と資料―』を2012年(平成24年)3月に刊行しました。一次資料の大部分を占める紙資料のうち、被災者の生活の基盤のひとつである住まいの再建に関わるものを掲載し、論説や資料解題も載せています。避難所や仮設住宅といった一時的な住まいから、被災マンションの補修・再建やまちづくりといった恒久的なものまで幅広く取り扱いました。

『震災資料集 vol.2　所蔵資料図録―暮らしのなかの震災資料』は、vol.1の成果を踏まえつつ、当センターに所蔵する震災資料のなかでも、文字情報が含まれないモノ資料の紹介を通じて、資料が語る手助けになることを企図しました。震災資料に込められた寄贈者の想いを後世に伝えるとともに、現時点の資料室の震災資料との向き合い方を記録するものでもあります。

図録に掲載したモノ資料は1210点(写真枚数1202枚)。以下ではその一部をご紹介します。

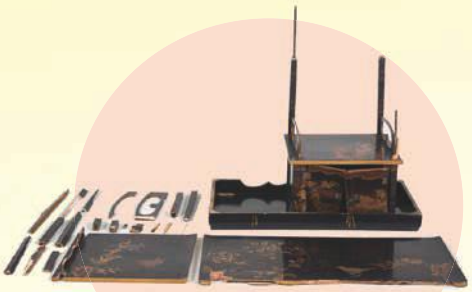
掲載資料の例

●第1部[特集]では、震災資料専門員の視点から新たな資料群を整理し、他媒体の資料や寄贈者の思いとともにご紹介しました。
●第2部 モノ資料写真一覧では、モノ資料のすべての写真と寄贈者・資料名称を01. 震災被害を示すモノ資料、02. 被災地内で生まれたモノ資料、03. 被災地外から届いたモノ資料、の三区分で示しました。

01. 震災被害を示すモノ資料

01. 震災被害を示すモノ資料には、壊れたり、歪んだり、焼けたりと、家屋の倒壊や焼失による所有物への被害を窺わせるものが多くあります。

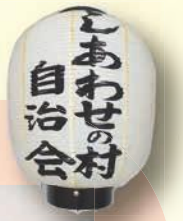
2500524-000003
森山修
長田区工場で焼けた写真機



2200390-000001
新司美千代
金蒔絵の飾り棚

02. 被災地内で生まれたモノ資料

02. 被災地内で生まれたモノ資料は、復旧・復興過程の人びとの生活を想起させるものや、当時目にしたであろうものが含まれています。



216-003003
しあわせの村仮設
しあわせの村自治会提灯

216-002073
しあわせの村仮設交流風景写真

03. 被災地外から届いたモノ資料

03. 被災地外から届いたモノ資料は、離れた地域から被災地に向けて送られた支援や励ましの気持ちを読みとることができます。

445-001001
中原健吉
アメリカから贈られた寄せ書き付きのキルト作品

ニューヨークのブロンクスにあるF.L.A.G.S高校で日本の文化について教えていた英語教師の中原さんは、帰国直後に震災に遭いました。勤務先の摩耶兵庫高校で避難所運営に奔走するなか届いた励ましのキルトです。

3100411-002002
野田北部まちづくり協議会
青池組看板

288-009008
まちの保健室

288-000001
たかとりコミュニティセンター(たかとり救援基地)
看板「まちの保健室」

ひとぼう資料室の試行

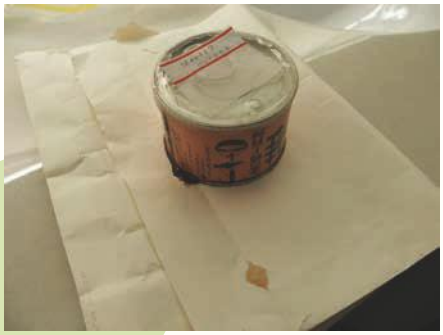
「所蔵資料図録」に掲載の対象とした 1210 点は、公開可能なモノ資料すべてです。阪神・淡路大震災の震災資料として 1995 年 (平成 7 年) から 2015 年 (平成 27 年) へと残され繋がれたものを感じていただければと願っています。

記録された情報は永遠ではありません。
これから 30 年、50 年、100 年と保存し続けるなかで、再整理や検討も求められるはず。だからこそ、定期的に資料の状態調査を行い記録し、最新の情報に更新するとともに、こうした手法を代々引き継いでいく必要があるでしょう。

その試行の一歩として、平成 27 年度はモノ資料のみの目録をつくり、箱を開けて薄様紙を解き、実際に目と手で確認し、目録情報の正誤をチェックしたうえで、一点一点を撮影しなおしました。センター西館 3 階の常設展示「記憶の壁」に展示されている資料の確認も行い、情報を整理しました。自分たちでは撮影できない大きな資料や破損して複雑な形態になった立体資料は、撮影のプロに協力を仰ぎました。

物質の劣化と保存

すべての物質は劣化します。震災資料への劣化予防措置を継続的にとっていますが、いずれ限界は訪れるでしょう。例えば、震災資料となった食品の現物ですが、そもそも 10 年単位での保存を考慮して作られたものではありません。
センターでは救援物資として配布されたものの、食べられることのなかった食品資料を 19 点所蔵しています。2015 年 (平成 27 年) 4 月には、 1 点の缶詰の継ぎ目が腐食し中身が漏れ出たために、記録写真を残して現物の資料を廃棄せざるを得ないとの判断を余儀なくされました（魚の缶詰　3600067-001002）。
これからも向き合い続けなくてはならない時間の経過と「保存」の問題。いま、私たちが取り組んでいる環境調査と資料保存の試行について紹介します。



▲金属の腐食によって中身の漏れ出た魚の缶詰

資料保存環境調査

原資料の劣化を遅らせ、収集した時の状態を可能な限り維持・保存していくためには、資料保存に適した環境を整えることが必要です。そのため資料室では、主に資料収蔵スペースにおいて年 1 回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づいた資料保存環境の整備を進めています。平成 16 年度から調査を定期化して平成 27 年度で 12 年目となりました。

今年度は資料保存環境の変化を調べるために、前年度とほぼ同じ箇所（3 階展示フロア内の収蔵スペース、5 階の作業スペース、7 階の 2 つの収蔵庫）で空気中のカビ測定、捕虫トラップによる文化財害虫の生存状況の調査を実施しました。

温度・湿度データ管理

震災資料にはさまざまな素材の資料が混在しているため、すべての資料に適合する温湿度の維持を目標に温湿度管理を行っています。平成 17 年度からは 3 階と 7 階の資料収蔵スペースに 5 台の温湿度計測・記録機を配置し、年間を通じて温度と湿度のデータを保存しています。
そして、これまで計測してきた温度・湿度データの結果にもとづいて、空調設定の変更、7 階収蔵庫への家庭用除湿器の設置等、様々な対策を講じています。その結果、資料収蔵スペースの温度は夏期を除いて、20 度前後でおおむね安定しています。しかし、湿度は通年で 20 ～ 70% 前後と変動が激しく、さらなる改善を検討しています。

防虫・防カビ対策 ―燻蒸―

震災資料のなかには、寄贈時から水損などでカビ類が発生した跡やサビが見られるものもあります。可能な限り劣化を遅らせるために、適時専門業者に依頼し、クリーニングや修復を行っています。

恒常的な対策としては、殺虫効果のある炭酸ガス燻蒸キットによる燻蒸のほか、外部からの文化財害虫やカビの侵入を防ぐため、7 階収蔵庫の各入口での抗菌粘着マットの設置等を行っています。

平成 27 年度にはカビの発生した資料と新規収蔵資料について、強力な殺虫・殺カビ効果のある酸化エチレンガス燻蒸を実施しました。酸化エチレンガスのなかでも、文化財に害を与えないと認定されている製品を指定し、専門業者によって行いました。

▲投薬のため設置される気化器･薬剤ボンベ

専用の倉庫に酸化エチレンガスを満たし、24 ～ 72 時間保管したのち、戻ってきたモノ資料。ガス燻蒸の効果は私たちの目には見えませんが、これから長期間カビを防ぎ資料を保存するための重要な取組です。

この図録が、いつかどこかの誰かにとって、閲覧や相談のきっかけになりますように。

配布物のご案内

今回発行の所蔵資料図録は無料でお配りします。PDFファイルもウェブ上で公開し、ダウンロード可能です。

資料室では図録以外にも、震災資料集 Vol.1 をはじめとする過去に発行した冊子やDVD、他機関からお預かりしているパンフレットやチラシ等を配布しています。

◆ 現在の主な配布物

- 震災資料集 vol.1 阪神・淡路大震災における住まいの再建 ―論説と資料―
- 震災資料集 vol.2 所蔵資料図録―暮らしのなかの震災資料―
- 資料室ニュースバックナンバー
- 災害学習ノート
- 減災グッズチェックリスト
- ユース震災語り部「私の語り」DVD
- 市民が撮った震災映像アーカイブ（条件付配布）
- 地震列島日本（マンションライフ継続支援協会作成）
- 地域における防災教育の手引き（日本法制学会作成）

配布物の数には限りがあります。
ご希望の方は資料室までお問い合わせください。

新着資料紹介

阪急電鉄3109車両前面扉（調査先番号　0000494）

昨年の 12 月に京都府向日市の山下順さんから、阪神・淡路大震災時に損壊した阪急伊丹駅に停車していた車両の扉を寄贈していただきました。阪急伊丹駅は震災によって柱が押しつぶされ、高架上にあったホーム階が地面に落ちてきたようなかたちになりました。地震が起きた午前 5 時 46 分は、伊丹駅からはちょうど前の電車が出発した直後で、幸いなことにホームに乗客はいませんでした。女子トイレにいた人は地震発生直後に見回りをした駅員に救出されています。駅舎内にあった交番では宿直勤務中だった警察官 2 名が生き埋めになり、自衛隊によって救出されましたが、1 名は既に亡くなられていました。

この扉は先頭車両の伊丹側の扉の片側です。材質はアルミ製で、大きさは縦 184 ㎝、横 78 ㎝、厚さは 5 ㎝あります。車両番号は 3109 で、3000 系の原型車です。表は、阪急マルーン、裏はマボガニー地プリントです。

山下さんの奥様は、神戸市長田区出身で阪神・淡路大震災を体験されました。ご家族でガールスカウトのイベントで人と防災未来センターに来館された際に、被災車両の部品は公的施設に預かってもらった方がよいと感じ、寄贈することを決められたそうです。

阪急伊丹駅周辺の被災状況（1995年（平成7年）1月17日撮影）
資料番号：420-001001

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方は、ぜひ一度資料室までご相談ください。

Facebook ページ
「ひとぼう資料室」が
600 いいね！を達成しました★

応援をありがとうございます！
これからも更新を続けますので、
どうぞよろしくお願いします。

（公財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室

〒651-0073　兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2　人と防災未来センター西館 5 階
TEL　078-262-5058　　FAX　078-262-5062
URL　http://www.dri.ne.jp
開室時間　9：30 ～ 17：30（展示施設とは時間が異なりますのでご注意下さい）
閉室日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）　12 月 29 日から 1 月 3 日